

安心できる安全な登校を

〈総務文教常任委員会現地調査報告〉

総務文教常任委員会は1月20日に黒木地区4つの小学校の統合に伴い、今年の4月から始まったスクールバス送迎に関わる現地視察を実施しました。

今回の視察行程は太淵・木屋地区の一部ではありますが、距離が約20キロ、登下校時間も約1時



スクールバス路線
(無田・弓掛線)

調査を終えて

現代における登下校途中の交通事故や犯罪を背景に児童生徒の安全性の観点から、遠隔地からの手段として、黒木小学校統合でスクールバス12台を運行し、小学校や地域における乗降には十分注意しながら、子ども達が楽しい学校生活が送れるよう安心できる運行でなければならない。



乗降する場所を視察する委員

九州北部豪雨災害復旧状況と

バイオマス実施事業

〈建設経済常任委員会現地調査報告〉

九州北部豪雨災害復旧状況と小型木質バイオマス農業施設実証事業の現地調査を2月5日に行つた。

作業員、資材不足などで不落が多い状況であるが、そのような箇所は随意契約によって取り組まれている。バイオマスポイラー実証中の500坪のイチゴハウスの調査では、12月から稼働し、重油を使用していた去年に比べ1か月約15万円の経費削減になっている。課題として木質チップの含水率が多いと燃焼率が低下するため、20%前後

災害を受けた市道・河川・林道・農地・水路・頭首工など災害査定箇所数1136箇所と多く、土木災害復旧室を中心に1日も早い復旧に全力で取り組んでいるが、1月末現在契約状況として約70%、復旧完了率は20%に満たない状況である。工事発注しても、業者や



実証中のイチゴハウスを視察する委員

調査を終えて

災害復旧では、箇所数が断然多いなか、業者不足とともに山間地の河川をはじめとして、復旧が技術的にも難しく遅れているが、28年度の完全復旧を目指し議会も執行部と連携し、しっかりと取り組んでいきたい。

また、バイオマスポイラーは、市内面積66%を占める山林の活性化にもなり、全力で取り組む必要がある。



頭首工の復旧 (星野村十箆地区)